

速報!

# 彦根西・長浜北高を廃校に！ 北部の定時制を全廃！

11日 県教委が  
高校再編計画案を発表

授業改革をすすめる

彦根西高をなぜつぶすの

彦根西高校は、現在普通学科2クラス、家庭学科2クラスで1学年4クラスの学校です。3年前から全校あげて「学びの共同体」と呼ばれる授業改革にとりこんでいます。県内外からたくさんの先生が視察に訪れる注目の実践です。

湖東地域は子どもの数が今後13年間減りません。廃校にする理由は全くありません。あるとすれば、県の台所事情くらいです。子どもたちの教育をお金がないからと切り捨てて良いのでしょうか。



こんな案でいいの？

地域の伝統校 長浜北高校  
をなくしてしまうの

長浜北高校は、普通科5クラス。100年の伝統ある地域の学校です。生徒のほとんどが大学進学を目指して勉学に励み、ほぼ全員が部活動に入り熱心に取り組んでいます。生徒を中心に地域と教職員が一体となって学校を支えています。統合されれば長浜高校の敷地を使用することとなり校舎は消えてしまいます。

湖北地域でも今後8年間は子どもの数が減りません。廃校にする理由はありません。

北部に定時制が

なくなってしまっているの

今回の計画案では、長浜北星、彦根工業、彦根東の3校にある夜間定時制を全て廃止してしまうことになっています。代わりに新しく、能登川高校に夜間と午後の定時制を1クラスずつつくることにしています。

県中部に定時制高校も必要でしょう。しかし、県北部に定時制が全く無くなってしまいます。経済的な、あるいは様々な問題を抱えて定時制に行く生徒たち。そんな子どもたちに湖北から能登川まで通えというのでしょうか。

県はどの地域の子どもたちにも高校教育を保障すべきではないのでしょうか。

統廃合計画案を撤回させる署名にご協力ください

# 県教委の廃校理由には 全く根拠がありません

## 滋賀県が高校をつぶそうとする 2つの理由

県教育委員会の理由は、次の2つの点にまとめられます。

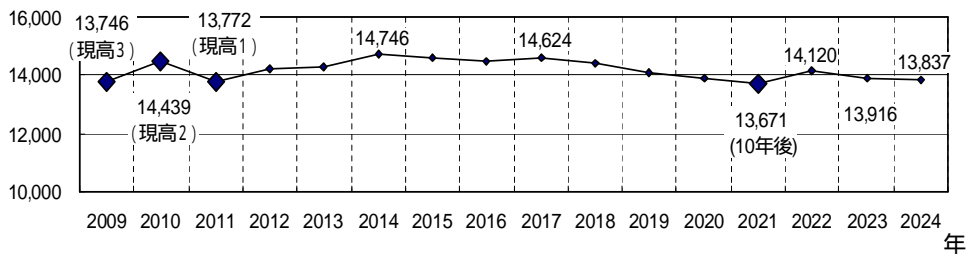
生徒数の減少により、「小規模校」が増え、「学校の活力」がなくなったから。  
県の財政状況が厳しいから。

## 今後10年、生徒数は減りません

「基本計画の期間は、概ね10年」としていますが、今後10年間で、全県の中学卒業生の数はほとんど変化がありません(下のグラフ)。11年後でも、現在の高校1年生より多い数です。今後10年ほどは子どもの数が減らないことは、県教育委員会自身も認めています。

したがって、その間に高校をつぶす必然性は何らありません。

【グラフ】滋賀県内の中学校卒業(予定)者数の推移



## 「小規模校 = 活力がない」はウソ

県教育委員会は「小規模校が増加し活力がなくなった」と短絡的に結論づけていますが、これは、各方面から批判されています。

「小規模で活力が落ちた高校があるのか」という私たちの質問に、県教育委員会の担当者は「具体的にそのような声が上がってきたわけではない」と答えています。

結局、「小規模校で活力がなくなった」にも根拠は全くありません。

## 財政不足だから仕方がない?

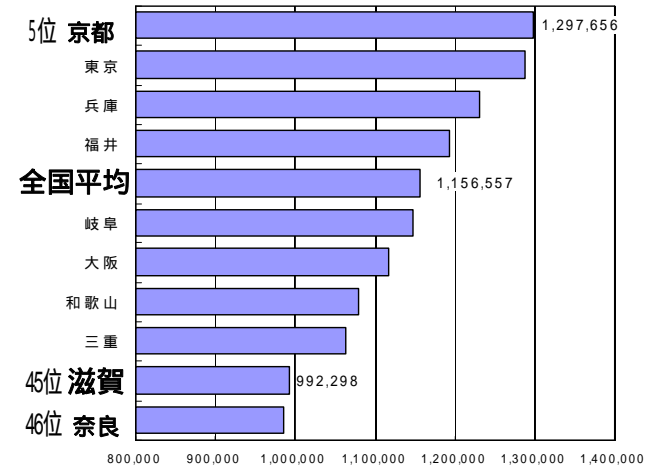
「財政不足」は他府県も同じです。高校を1校つぶしても、6000万円ほどの節約にしかなりません。滋賀県全体の予算は約5000億円です。しかも、高校生一人あたりに使う教育予算は全国ワースト3です(トップの大分県の約半分)。

「どこで節約して、必要などころにお金を回すのか」



は、行政の責任」(村西俊雄愛荘町長)であり、「教育を財政の問題にしては絶対ならない」(押谷憲雄長浜市議)はずです。「何にお金を使うのがよいか」を考えるのが、県知事や県議会の仕事ではないでしょうか。

高校生一人あたりの教育費(2008年)



奈良では4年間で11校が廃校になっています

## 多くの人たちから反対の声!

計画を知った多くの人から疑問や心配の声が上がり、県下19市・町中の17の議会で「統廃合反対」や「慎重に」との意見書が上がりました。

また、のべ6万人ものひとが「統廃合計画をストップせよ」との署名をしました。

いま、統廃合計画案の撤回を求める署名運動をすすめています。署名にご協力ください。

発行 県立高校の統廃合を考える会  
〒520-0052 大津市朝日が丘1-11-3  
教育文化会館内  
077-522-4965 Fax077-522-4978  
E-mail sikokyo@yahoo.co.jp